

Profile Data

▼グループ名

NPO法人 横浜シャフルボード協会

▼代表者

理事長・薩川俊三

▼ジャンル

スポーツ、趣味同好

▼活動拠点

横浜市都筑区葛ヶ谷公園内
シャフルボードコート

▼会員数

約70人 男女比 6:4

▼問い合わせ

<http://www.boys-girls.jp/g00003/>



コートの前に集合、和気あいの雰囲気ポーズを



浦健二郎さんも「コートに細かなガラスビーズを撒いて滑るようにするが、レーンによってもクセがあり、相性がある。うまい人が必ずしも勝つとは限らない。腕より



理事長の薩川さん。
やさしく指導してくれる

決まったかな？

も速が多いかな、だから面白い」。杉浦さんは5年のキャリアがある。駆け引きが醍醐味

シャフルボードは2人でするシングルと4人のダブルスがある。いずれも4枚のディスク(円盤)をキューと呼ばれる道具で、コートの向こう側にある得点エリアに入れ、相手と得点を競う。高い得点エリアにある相手のディスクを飛ばして、有利な位置に自分のディスクを入れたり、裏側から入れたり、やはりカーリングに似ている。相手との駆け引きが醍醐味。一つ先でなく、二つ先、三つ先を読む



黒と黄色のディスクとキュー。
向こう側の得点エリアに入れる

かなり頭を使う。面白さが分かるには1年くらいかかり、1年続けるとそのまま継続する。薩川さん。メンバーに話を聞くと、「なかなかうまくいかないけど、自分の思うところに行ったら、やったという感じ」「頭を使って作戦を考える、狙い通りにいかないとルールが難しい」「適度な運動で太陽にあたるのも気持ちいい」という声も。見学は随時、一般の人向けに講習会を定期的に開催しているので、まずは体験を。シャフルボード、大いに普及してもらいたいものである。



それぞれのコートで真剣なプレーが。後ろのボードに得点を書いていく

ハマから全国区へ 頭脳プレーが楽しい NPO法人横浜シャフルボード協会

「シャフルボードは日本では知らない人も多いスポーツだ。だが、欧米では案外歴史のあるスポーツといえる。元々はイギリスで13、14世紀に始まり、19世紀半ばからは客船の甲板で行うようになった。その後、陸地のスポーツになり、アメリカ、なかでもフロリダが盛ん。リタイアした人が多くやっているスポーツで、アメリカでは身障者や車イスの人もプレーしている。カーリングとビリヤードを組み合わせたような競技。ルールはカーリングに似ていて、ディスクという円盤を得点エリアにどれだけ残せるかで得点を競う。年齢・男女を問わず誰でも楽しめるのが特徴である。

横浜シャフルボード協会は、1988年に設立された。その前年に横浜市が市制100年の記念事

業にシャフルボードの国際大会を実施、その時の都筑区葛ヶ谷公園内のコンクリート製コート(12面)を現在も使用している。理事長の薩川俊三さん(74歳)は言う。

「色々取材を受けますが、あまり競技人口が増えないためか、いつまでもニュースポーツとして紹介されてしまうのが残念。だからシャフルボードを普及させるため、今年2月、NPO法人を設立した。現在、屋外のコンクリートコートは東京と横浜(4カ所のみ。体育館で使える可搬式(組み立て式)コートを紹介し、全国に普及・推進を願っている。

生涯スポーツとしてとらえる現在のメンバーは約70人、常時20〜30人位参加し、月例会では40

人が参加する。50代〜80代で多いのは70代前半。横浜近辺だけでなく、東京、浦安から来ているメンも多く、夫婦の方が長続きすること。取材に行った日も80代の人が4人いると聞いたが、あまりピンとこないほど元気な姿勢が多い。そしておしゃべりな人が多い。練習は火・木・土曜の練習と第1・第3日曜の月例会。かなり熱心だ。熱心といえば、薩川さんは奥さん、一緒に何度もシャフルボードの本場アメリカに行き、練習したり、試合に出たりしている。この会では指導員をしている。

「この競技は力がいらないので高齢者にもできます。健康のためと技術の向上のために努力する。なかなか奥の深いスポーツ」と。また、ホームページ担当委員の杉